

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和6年10月10日
枚方市立田口山小学校

文部科学省が今年4月に実施した令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について、本校の学力や学習の状況について、保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

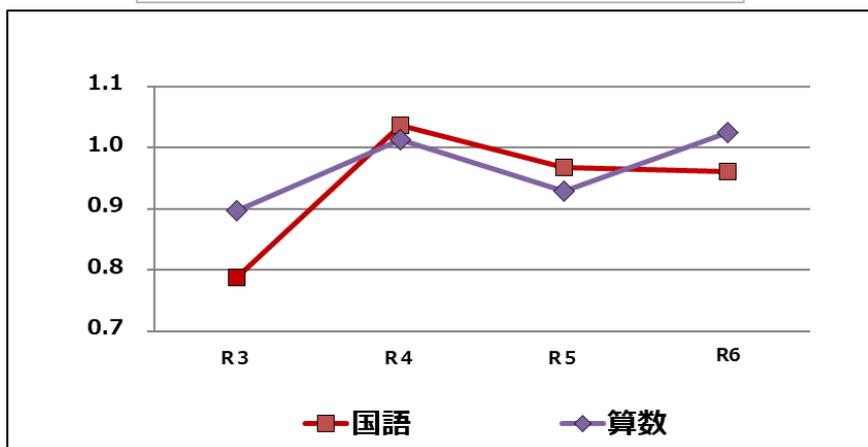
※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の平均正答率(対全国比)をお知らせします。

(全国の平均正答率を1とした経年比較)



令和6年度 平均正答率 対全国比		国語	算数
田口山	小学校	0.96	1.03

※対全国比については、ホームページやブログ等で公開する際は、非公開とします。(保護者の皆様にもお知らせしません。市教委の見解によるものです。)

<学力調査結果の概要>

○国語について

→学習指導要領の6つの領域(*1)で見ると、「C読むこと」に関する設問においては、全国平均正答率よりも8.1ポイント上回る結果が見られました。しかし、「我が国の言語文化に関する事項」に関する設問では全国平均正答率を下回っているため、引き続き課題は残るものの、これまで課題とされていた記述式の設問では昨年度よりも平均正答率が全国平均正答率を上回り、無解答率も全国平均無解答率を下回る結果となり、粘り強く考えることができつつあることが見受けられる結果となりました。

*1 国語科 学習指導要領の6つの領域区分

[知識及び技能]

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 (2) 情報の扱い方に関する事項
(3) 我が国の言語文化に関する事項

[思考力、判断力、表現力等]

- A話すこと・聞くこと B書くこと C読むこと

○算数について

→今年度は昨年度よりも平均正答率が大きく上昇し、全国平均正答率を上回る結果となりました。学習指導要領の4つの領域(*2)で見ると、「変化と関係」に関する設問において、全国平均正答率よりも6.4ポイント上回る結果が見られました。また、評価の観点【知識及び技能】【思考・判断・表現】の平均正答率では、両方の観点で全国平均正答率を上回っており、多くの児童が身につけた知識や技能を活用しながら、問題解決ができていることがうかがえる結果となりました。

*2 算数科 学習指導要領の5つの領域区分

「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」

国語科において成果・課題があった設問

【成果と課題が見られた設問】

◎人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかを見取る設問

松居スーザン（「オニグモじいさんの朝ごはん」による）

三 原さんは、鳥さんと話し合ったあと、「物語」を読んで、心に残ったところとその理由をまとめています。あなたなら、「物語」を読んで、心に残ったところとその理由をどのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。

（条件）

- 心に残ったところと、心に残った理由を書くこと。
- 「物語」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十文字以上、百字以内にとめて書くこと。

※左の原稿用紙は下書き用紙なので、使っても使わなくても構いません。解答は、解答原稿に書きましょう。★の印から書きましょう。とらやうでけをえないて、続けて書きましょう。

3 原さんの手紙では、物語を読み、心に残ったところについて説明することになりました。原さんは、「オニグモじいさんの朝ごはん」という題名の物語を選んで読んでいます。次は、原さんが読んだ「物語」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

	正答率	無解答率
本校	87.9%	6.1%
全国	72.6%	12.6%

〈考察〉

多くの児童が、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりするために登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方などを総合して判断し、想像した人物像や全体像を関わらせながら、様々な表現が読み手に与える効果について自分の考えを書く・表現することができていました。これは、日常の授業から複数の叙述を結び付けながら、考えを深める言語活動を行うことによって目的をもって文章を読む学習を行っていることの成果の表れだと考えます。

◎資料を活用し、自分の考えが伝わるように表現を工夫できるかを見取る設問

- (2)
- 1 相手が興味をもっていることに気づき、相手の言葉を引用して話した。
 - 2 相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話した。
 - 3 相手が興味をもっていないことに気づき、言葉の意味を説明しながら話した。
 - 4 相手が興味をもっていないことに気づき、自分の体験を加えて話した。
- 和田さんは、村木さんの発言⑥を受けて、発言⑦のように話しました。和田さんの話し方のくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

⑧ 本に興味をもってもらえるようになるのはいいてですね。ぜひやってみます。

⑨ 次に、私たちの学校の給食についてしょうかいしたいのですが、いいですか。

⑩ お願いします。

⑪ アイデア給食というものがあります。年2回、自分たちが考えたこんだてが登場します。海に近くて、魚がたくさんとれるので、魚料理などを考えます。みんなでアイデアを出し合ったこんだてが登場するので、アイデア給食と呼んでいます。

⑫ みんなで考えたこんだてが出るなんてうらやましいです。私の学校は、ランチルームがあり、全校のみんなで給食を食べます。

⑬ みんなで食べられるなんて、楽しそうですね。

⑭ はい、給食の時間が楽しみです。ところで、和田さんの学校は、海に近いということですが、他にも、海に近い学校ならではの取り組みはありますか。

⑮ えっと…（和田さんのメモを見返す）、二つあります。総合的な学習の時間の取り組みと、砂浜の清掃活動です。

⑯ 二つもあるんですね。ぜひ、一つ一つ詳しく教えてください。

～（交流が続く）～

深緑小学校 村木さん

海風小学校 和田さん

① はじめまして。深緑小学校の村木です。今日は、とても楽しみにしていました。

② はじめまして。海風小学校の和田です。よろしくお願ひします。

③ メールありがとうございました。図書委員会のことを知りたいということでしたので、まず、海風小学校の図書委員会の取り組みのしょうかいで、読書イベントが、月に1回、図書委員会、クイズなどをして、私もそれに参加して、今まで読んでいた分野の本を読みました。

④ せっかく教えてもらったのですが、だれが何をしているのかが分からなかったのでもう一度教えてもらえませんか。

⑤ 説明がよくなかったですね。話し方を変えますね。図書委員会が、月に1回、クイズなどの読書イベントをしてくれます。私もクイズに参加しました。今まで読んでいた分野の本を読むことができました。

⑥ よく分かりました。おもしろそうですね。

⑦ そうなんです。先月の読書イベントでは、図書委員がさまざまな分野から本を選び、本の内容からクイズを出題してくれました。これが、実際に出題されたクイズが書かれたカードです。私も参加することで、科学の本に興味をもつことができました。

1 二 和田さんは、「和田さんのメモ」を生かして、村木さんとオンラインで交流しました。次の「オンライン交流の様子の一部」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

	正答率	無解答率
本校	37.9%	0%
全国	52.9%	0.7%

〈考察〉

和田さんが相手に興味をもっていることには気付いているものの、村木さんの発言から、用意していた実物を示しながら話したことを捉えることができていない誤答が39.4%あり、村木さんの「…これが、実際に出題されたクイズが書かれていたカードです。」という箇所を読み取れていませんでした。話し言葉は、聞き手のうなずきや表情などに注意しながら、聞き手の状況に応じて表現を工夫することが大切であることから、授業の際に「どのように工夫するか・工夫した方が相手に伝わりやすいか」等を意識させながら対話を行う必要があると考えます。

算数科において成果があった設問

【成果と課題が見られた設問】

◎計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかを見取る設問

2

トラック1台で、350 kgの米を運ぶことができます。



(1) まず、あやのさんたちは、このトラック2台では、何kgの米を運ぶことができるかについて考えました。

あやの



2台

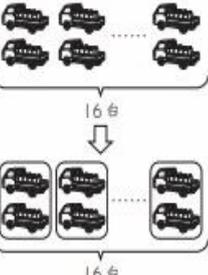
$350 \times 2 = 700$ で、
700 kgの米を運ぶことができます。

次に、このトラック16台では、何kgの米を運ぶことができるかについて考えています。

はやて

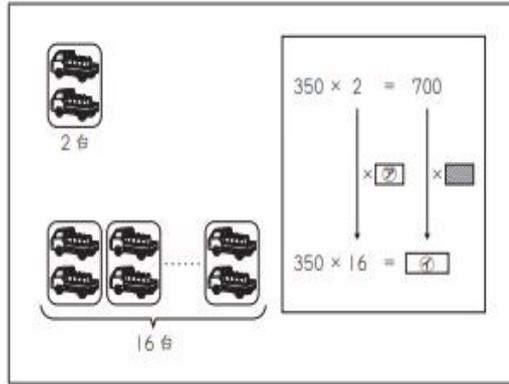
式は 350×16 です。筆算をしようかな。

あやの



筆算をしなくても、
 350×16 の答えを求めることができます。
2台のときの米の重さをもとにすれば、16台のときの米の重さがわかります。

そこで、あやのさんたちは、下の図のように、 $350 \times 2 = 700$ であることをもとに、 350×16 の積の求め方についてまどめました。
このとき、 350×16 のかける数「16」が、 350×2 のかける数「2」の何倍になっているかに着目しました。



上の②に入る数に着目すると、 350×16 の積は、どのように求めることができますか。
②に入る数に着目したときの①の求め方を、式や言葉を使って書きましよう。そのとき、②に入る数をどのように求めたのかわかるようにしましょう。
また、①に入る数も書きましよう。

	正答率	無解答率
本校	60.6%	3.0%
全国	56.9%	3.4%

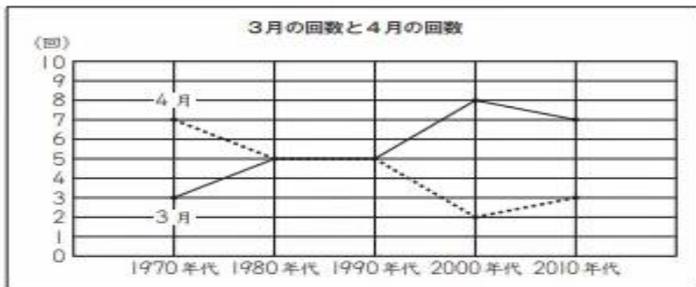
〈考察〉

ここでは計算の成り立つ性質や計算の仕方を式や言葉で書く必要があったため、2つの条件(① 16が2の8倍であることを表している式や言葉② 700の8倍になることを用いて、 350×16 の積をを求める式や言葉)を満たした解答を書く必要がありました。これまで本校児童が課題としていた書く力を育むために国語科だけではなく、算数科でも意識しながら、自分の考えを図や表・式・言葉などを用いながら書き、問題解決を行ってまいりました。その成果が、今回の解答で一定程度示されたのではないかと考えます。しかし、多くの誤答が2つの条件を満たして書けていないものであったことから、引き続き、条件の数字がどこの何を表しているのかを確認しながら授業を進めていく必要があると考えます。

◎折れ線グラフから必要な情報を読み取り、条件に当てはまることを言葉を用いて記述できるかを見取る設問

5

(3) こうたさんは、1970年代から2010年代について、C市の桜の開花日の月を調べました。すると、1970年代以降は、開花日の月が3月と4月のどちらかであることがわかりました。
そこで、開花日の月について、各年代の3月の回数と4月の回数を、下のように折れ線グラフに表しました。



こうたさんたちは、左の折れ線グラフをもとに、気づいたことについて話し合っています。

こうた

1970年代は、3月の回数より4月の回数のほうが4回多いですね。

ひなの

3月の回数と4月の回数が同じ年代がありますね。

しおり

3月の回数と4月の回数のちがいが大きい年代がありますね。

左の折れ線グラフで、3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代はいつですか。また、その年代について、3月の回数と4月の回数のちがいは何回ですか。

ちがいが最も大きい年代と、その年代について、3月の回数と4月の回数が何回ちがうかを、言葉と数を使って書きましよう。

	正答率	無解答率
本校	36.4%	6.1%
全国	44.0%	12.6%

〈考察〉

この問題の無解答率は全国平均無解答率よりも低く、児童の粘り強く考えようとする姿勢が表れており、よい結果の一つと考えられます。しかし、この問題においても、2(1)と同様に、全ての条件(①3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代が2000年代であることを表す言葉②2000年代の3月の回数と4月の回数の違いが6回であることを表す数)を満たしながら解答することができていない誤答が多く、その誤答詳しく見てみると、条件①は書いているものの、条件②が書けていないものが21.2%と多く見られたことから、どのような問題においても確実に問題の趣旨を捉えた解答する力を身に付けていく必要があると考えます。

質問紙調査の結果

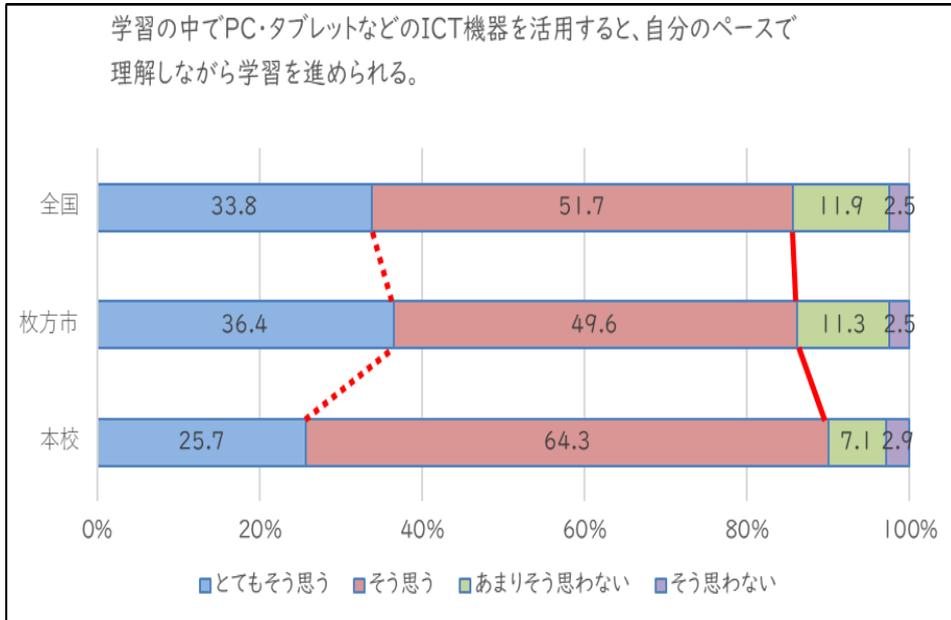
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。

※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

【成果と課題が見られた項目】

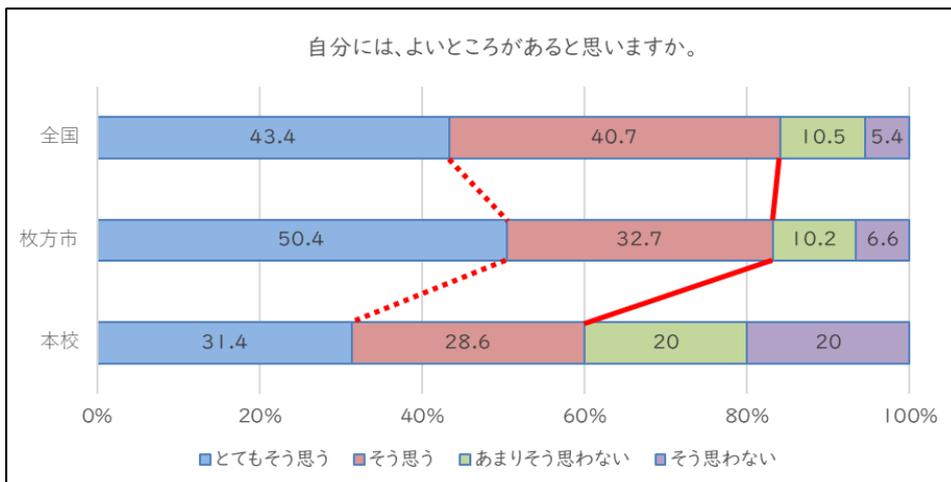
◎学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用すると、自分のペースで理解しながら学習を進められる。



〈考察〉

タブレットを活用しながら学習を進めることに関しましては、枚方市ICT教育の5つの視点（創造、協働、思考・判断、意思伝達・挑戦）をいつ・どのような場面で活用していくことが効果的なのかを考えながら取り組んでいます。また、児童一人ひとりがタブレットを学習道具の一つと捉え、どのような場面でタブレットを活用すればよいか、どのように活用することで自分の学習に役立つかなども考えさせながらICT教育を進めております。今後もそれぞれの取組を振り返り、必要に応じて改善を加えながら、児童一人ひとりの課題を克服できるよう、取組を進めてまいります。

◎自分には、よいところがあると思いますか。



〈考察〉

自己肯定感の項目では肯定的回答の割合が昨年度より18.2%下回る結果となりました。自己肯定感が高いと、「ありのままの自分を認めることができ、他者も認めることができる。自分に自信がもてるので、困難も乗り越えられる。」といわれています。またその反対に、自己肯定感が低下すると「前向きな思考になれない。」「すぐに諦めてしまう。」「相手に対し攻撃的になる。」等の思考が働きやすくなってしまいうため、多くのことに対してネガティブに捉えてしまいます。これは児童一人ひとりが持っている可能性を広げることが難しくなると同時に、学校生活や学習意欲の低下にもつながっていくことが考えられます。

本校といたしましては、児童一人ひとりの自己肯定感が育まれるように結果を重視しながらも、その過程（活動や取組）を大切に、自己肯定感の向上を図っているところです。また自尊意識を育むためにはご家庭との連携・協力が不可欠であり、より一層推進させる必要があると考えております。学年だより（10月号）にも掲載させていただきましたように、各ご家庭におかれましても『「自己肯定感」を育てるための3ステップ』を参考に、お子様の自己肯定感をともに育てていただきますようよろしくお願いいたします。

分析結果を踏まえて取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

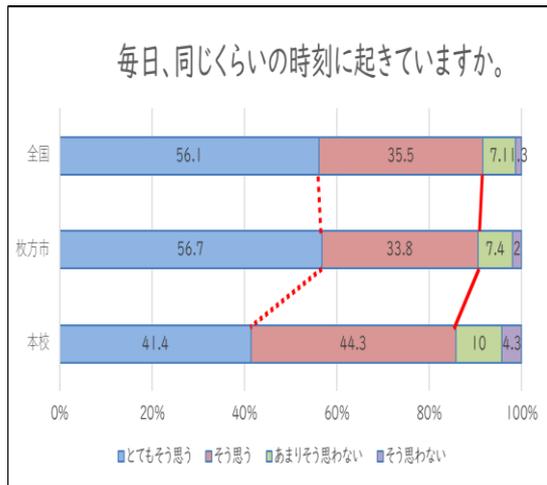
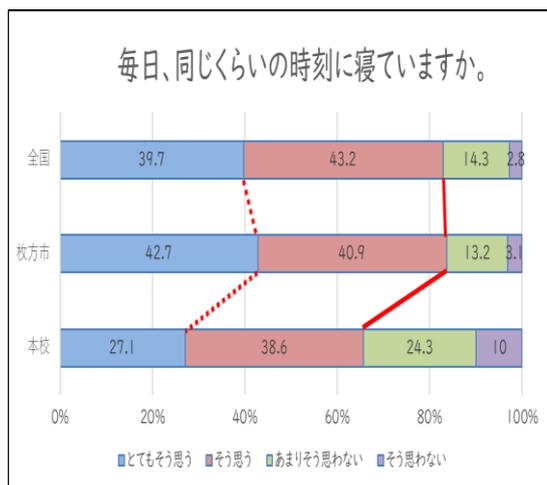
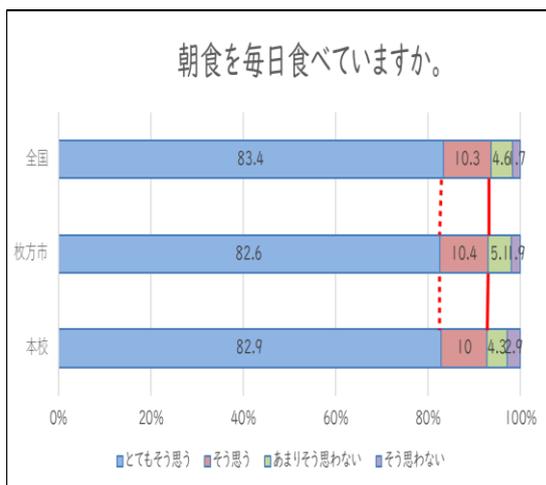
本校の今年度の校内研究のテーマである、『今、求められる力を高める探究的な学び ～子どもが主役の学びをめざして～』をめざし、授業の中で様々な形での対話を取り入れていくことに重点をおき、友だちと考え合ったり、じっくりと考え直したりする時間を意図的に授業の中に設けることで、ともに学び高め合っていく関係をつくっていきます。(協働的な学び)そして自分の考えが広がることや深まることを児童自身が実感しながら学びを進められるよう、個別最適な学びを大切に、授業のふり返しを行っていきます。また総合的な学習の時間を中心に、児童一人ひとりが「学びたい」と思えるような探究的な学習を取り入れることで、主体的に学習に向かう態度を育み、学習のゴールのためには何をいつ学ばばいいのかという学習の見通し(学習計画)を自分達で作ることや、授業で身に付けた力が生活の中や他教科のどのような場面で使えるかを意識させることにも取り組んでいきたいと思えます。

(2) 家庭学習について

児童が自分の学びを自己調整できるようになることを目標に、宿題の出し方や自主学習の取組方を工夫しています。具体的には3年生以上の学年で自主学習の宿題を出したり、自主学習の方法やポイントが分かるように校内に掲示することを行っています。また、タブレットを活用しながらnavimaやeboard(イーボード)、その他の学習アプリを活用しながら復習(予習)を行ったり、共有ノートや提出物を共有できる機能を活用することで、友達の学習を見て参考にできようにするなどの方法を行っています。2週間に一回行っている「ステップサポートDay」では、ドリル的な学習に加え、一人ひとりの課題に正対した内容に取り組み、児童の学習が途切れないよう支援を行っています。これらの取組を引き続き行い、知識・技能の定着、思考力・判断力・表現力の向上を図ってまいります。

(3) 基本的な生活習慣の向上について

児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、学校では様々な教科・学校生活を通して、児童に必要な生活習慣について指導を行っております。また、毎学期行う「生活習慣チャレンジカード」を実施の際には、各学年の基準となる目標時間や時刻を伝えさせていただきながら、各ご家庭のご協力を賜りながら取組を進めております。実施後は自分の生活習慣を振り返り、自分の生活を見つめ直すことにも取り組んでおります。引き続きこの取組を継続してまいりますので、何かとご多用の折とは思いますが、各ご家庭におかれましてもご協力をお願いいたします。



※令和6年度学力・学習状況調査(質問紙)の生活習慣に関わる項目です。ご家庭での生活習慣向上の参考にして下さい。